

# 日本気象学会 2017 年度春季大会

## 出展・リクルートブース開設・協賛・協力企業・団体等一覧

今大会の開催に当り、以下の企業・団体からご出展・リクルートブースご開設・ご協賛・ご協力を頂きました（2017年3月15日現在；50音順）。厚く御礼申し上げます。

### < 出展・リクルートブース開設・協賛・協力 >

株式会社アイ・アール・システム\*  
株式会社朝倉書店  
株式会社ウェザーニューズ+  
英弘精機株式会社\*  
オフィス気象キャスター株式会社+  
気象工学研究所+  
サイバネットシステム株式会社\*  
JAXA 第一宇宙技術部門 地球観測研究センター(EORC)\*  
株式会社島津製作所  
全日本空輸株式会社  
ダイヤモンドエアサービス株式会社  
DKSH ジャパン株式会社\*  
東京ダイレック株式会社\*  
一般財団法人東京大学出版会\*  
トーテックス株式会社  
日本気象株式会社+  
一般財団法人日本気象協会\*+  
株式会社日立パワーソリューションズ\*  
株式会社プリード\*  
三菱電機株式会社\*  
(五十音順)

\*はポスター会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です。

+はポスター会場内に併設されるリクルートブースを設ける予定の企業・団体です。

# 日本気象学会 2017 年度春季大会

会期：2017年5月25日（木）～28日（日）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）  
（<http://nyc.niye.go.jp/>）

大会実行委員会担当機関：東京大学先端科学技術研究センター，東京大学大学院理学系研究科，  
国立極地研究所，首都大学東京

大会委員長：中村 尚（東京大学先端科学技術研究センター）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局  
（国立オリンピック記念青少年総合センター405会議室（センター棟4F））  
TEL 090-1833-8948（大会期間中のみ有効）  
※大会参加者への伝言は，受付付近の掲示板に掲示します。  
取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

## 会場案内図

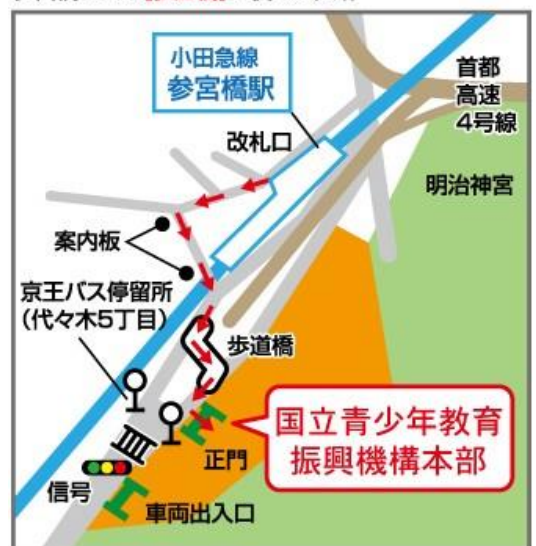


国立オリンピック記念青少年総合センターホームページより

## 交通の案内

- 小田急線：  
新宿駅から各駅停車 約3分  
「参宮橋」駅下車 徒歩 約7分
- 地下鉄千代田線：  
「代々木公園」駅下車 徒歩 約10分
- 京王バス：  
新宿駅西口16番より 「代々木5丁目」下車  
渋谷駅西口40番より 「代々木5丁目」下車

## 参宮橋からの【歩道橋】を使った経路



## 参宮橋からの【横断歩道】を使った経路



# 大会行事予定

A会場 : セミナーホール417 (センター棟 4F)      総会・記念講演・シンポジウム: 大ホール (カルチャー棟)  
 B会場 : 309 会議室 (センター棟 3F)      受付 : 416 会議室 (センター棟 4F)  
 C会場 : 310 会議室 (センター棟 3F)      大会事務局 : 405 会議室 (センター棟 4F)  
 D会場 : 311 会議室 (センター棟 3F)      懇親会 : レセプションホール (国際交流棟)  
 ポスター会場: 401・402・403・409 会議室 (センター棟 4F)  
 (企業展示会場・リクルートブース併設)

		A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
5月25日 (木)	10:00～ 11:30	中高緯度大気 (5, A101～A105)	観測手法Ⅰ (7, B101～B107)	専門分科会 「気象庁データを利用 した気象研究の現状と 展望」 (7, C101～C107)	専門分科会 「気候変動影響への適 応技術とその社会実装」 (5, D101～D105)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (30, P101～P130)			
	13:30～ 17:00	熱帯大気・台風 (14, A151～A164)	観測手法Ⅱ (6, B151～B156) 大気力学 (9, B157～B165)	データ同化 (16, C151～C166)	専門分科会 「異常気象のメカニズ ムと要因分析」 (13, D151～D163)
5月26日 (金)	09:30～ 11:30	気候システムⅠ (9, A201～A209)	降水システムⅠ (9, B201～B209)	気象予報 (7, C201～C207)	物質循環 (9, D201～D209)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (34, P201～P234)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:40	学会賞, 藤原賞, 岸保・立平賞, 山本賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月27日 (土)	09:30～ 11:30	気候システムⅡ (9, A301～A309)	降水システムⅡ (8, B301～B308)	環境気象・大気境界層 (9, C301～C309)	大気放射 (9, D301～D309)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (33, P301～P333)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「最新の気象学が描き出す多彩な大気海洋結合現象」			
5月28日 (日)	09:30～ 11:30	気候システムⅢ (5, A401～A405) 気象教育 (4, A406～A409)	降水システムⅢ (9, B401～B409)	専門分科会 「福島第一原子力発電 所からの放射性物質の 拡散の実態と影響一 事後6年を経過して」 (9, C401～C409)	専門分科会 「新世代静止気象衛星 ひまわり8号がもたら す新しい気象学」 (9, D401～D409)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (4, P401～P404) ジュニアセッション (11:00～12:30)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会 「大雨災害」に備える」	中層大気 (13, B451～B463)	専門分科会 「2015年と2016年の 台風」 (12, C451～C462)	専門分科会 「偏波レーダーを用い た観測解析技術と利用 法の展開」 (17, D451～D467)

発表件数: 330 件 (専門分科会 72, 口頭発表 157, ポスター101)

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について ([http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ\\_kitei\\_copyrightpolicy.pdf](http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf))」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰 1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (E-mail: kouenkikaku2017s@mri-jma.go.jp) まで。

## 講演の方法

### 一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演 1 件あたりの持ち時間は 12 分 (講演 10 分・質疑 2 分) です。
- ・ 専門分科会の発表時間についてはコンピーナーからの指示に従ってください。
- ・ 講演には PC プロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
  - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクター、VGA ケーブル及び HDMI-VGA 変換アダプタを準備します。VGA (ミニ D-sub15 ピン)、あるいは HDMI (フルサイズ) コネクタを装備した PC が使用できます。
  - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
  - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすること

があります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

### ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦 150cm×横 180cm となっています。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋏をお使い下さい。画鋏は各自でご用意下さい。なお、テープは使用することができません。
- ・ ポスターの掲示可能時間は、大会第 1～3 日目は 09:00～19:00、大会第 4 日目は 09:00～13:00 です。会場の都合上、特に撤収は毎日時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に予め申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

## シンポジウム「最新の気象学が描き出す多彩な大気海洋結合現象」

※シンポジウムには一般の方もご参加いただけます。ただし春季大会参加登録をされていない方は、参加登録ページ(<http://www.metsoc.jp/?p=5906>)での事前登録(無料)が必要です。

日時：大会第 3 日 (5 月 27 日) 13:30～17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール (カルチャー棟)

司会：松本 淳 (首都大学東京 地理学教室)

### 趣旨：

海洋は地表面のおよそ 7 割を占め、海面水温と海氷分布は、より速く移ろいゆく大気にとっての下方境界条件となる。その一方で、大気は風応力や海面熱・水・放射フラックスを介して海洋や海氷に熱的・力学的強制をもたらす。この大気-海洋間の双方向の影響の揺らぎに伴って大気海洋結合変動が起こる。2014 年夏に始まったエルニーニョ現象は、各国の予報機関による大方の予測に反して弱いまま推移したのち、翌 2015 年になって観測史上 3 番目の強さにまで発達し、遠隔影響を介して世界各地に異常気象を引き起こした。このように熱帯大気海洋結合変動が中高緯度の気候に影響する一方で、これまでの研究では、中緯度海洋はこれに受動的に応答するだけとされていた。しかし最新の研究により、中緯度の海洋変動が能動的に大気変動を駆動する例も見い出されている。他方、北極域の海氷変動は大気に熱的に影響し、中高緯度帯に異常気象をもたらす可能性が指摘され、活発な研究がなされている。2017 年は、このような海洋や海氷と大気との相互作用の理解に挑む 2 つの国際キャンペーン --海大陸研究強化年 (YMC) と極域予測年 (YOPP)-- の開始年に当たる。

大気海洋系の相互作用に対する研究への機運がこのように国際的な高まりを見せる中、本シンポジウムでは多彩な大気海洋結合現象を最新の研究成果を交えて概観し、さらなる研究への取り組みを展望する機会としたい。講演は熱帯から極域に渡る多様な大気海洋結合現象を包括するよう企図した。このシンポジウムが大気海洋相互作用研究の意義と魅力を幅広い方々に知っていただく機会となれば幸いである。

### プログラム：

- 1) 「ENSO の監視と予測」  
安田 珠幾 (気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)
- 2) 「YMC: 海大陸域における大気-海洋-陸面相互作用研究」  
米山 邦夫 (海洋研究開発機構 大気海洋相互作用研究分野)
- 3) 「熱帯大気海洋結合変動がもたらす東アジアへの遠隔影響」

- 小坂 優 (東京大学 先端科学技術研究センター)
- 4) 「気候系の Hotspot: 中緯度の暖流や水温前線が及ぼす気候系への影響」  
中村 尚 (東京大学 先端科学技術研究センター)
- 5) 「YOPP: 北極観測と予測可能性研究の融合」  
猪上 淳 (国立極地研究所 国際北極環境研究センター)
- 6) 「総合討論」  
司会: 松本 淳 (首都大学東京 地理学教室)

※各講演時間は質疑応答を含めて 30 分です。  
問い合わせ先: 小坂 優 (東京大学先端科学技術研究センター)  
TEL: 03-5452-5144  
E-mail: symposium2017s@netsoc.jp

## 総 会

日時: 大会第 2 日 (5 月 26 日) 13:30~15:20  
会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター  
議事次第

- |                                 |                                     |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 開会                           | (3) 2016 年度監査報告                     |
| 2. 議長選出                         | 9. 報告                               |
| 3. 理事長挨拶                        | (1) 2017 年度事業計画                     |
| 4. 2017 年度日本気象学会賞授与             | (2) 2017 年度収支予算                     |
| 5. 2017 年度藤原賞授与                 | (3) 2015 年度決算報告 (正味財産増減計算書) の<br>修正 |
| 6. 2017 年度岸保・立平賞授与              | (4) その他                             |
| 7. 2016 年気象集誌論文賞及び SOLA 論文賞授与報告 | 10. 議事録署名人の指名                       |
| 8. 議事                           | 11. 議長解任                            |
| (1) 2016 年度事業報告                 | 12. 閉会                              |
| (2) 2016 年度決算報告                 |                                     |

## 専門分科会の概要紹介

2017 年度春季大会では下記の通り、7 件の専門分科会が開かれます。

### 気象庁データを利用した気象研究の現状と展望

日時: 大会第 1 日 (5 月 25 日) 10:00~11:30

場所: C 会場

趣旨: 気象庁と気象学会との包括的共同研究契約である「気象研究コンソーシアム」が締結されて 9 年が経過しました。コンソーシアムでは、数値予報用実況解析、各種数値予報データなどの気象庁モデルの出力データのみならず、海面水温解析値や気象衛星ひまわり 8 号データなどの最先端の解析・観測データの提供などを通じ、気象研究とその研究成果の社会還元への促進に努めています。

本分科会では、

- (1) 数値予報の出力データを利用した研究
- (2) 気象衛星ひまわり 8 号データなど新しい観測データを用いた研究
- (3) 数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究

などに関する講演を募集し、気象庁データが拓く新しい気象研究について展望します。なお、本分科会への講演申込には、コンソーシアムへの参加の如何は問いません。  
コンビーナー: 坪木和久 (名古屋大学宇宙地球環境研究所)、余田成男 (京都大学大学院理学研究科)、永戸久喜 (気象庁予報部数値予報課)

### 気候変動影響への適応技術とその社会実装

日時: 大会第 1 日 (5 月 25 日) 10:00~11:30

場所: D 会場

趣旨: 2015 年 11 月に政府の「気候変動の影響への適応計画」が閣議決定された。これまでの温室効果ガスの排出量削減を主とした気候変動への緩和策に加え、気候変動の影響への対策として気候変動への適応策の推進が求められている。これを受け、省庁レベルでの適応プロジェクトが推進され、自治体においても適応基本方針などを策定する都道府県、政令指定都市などが増えてきて

いる。暑熱分野の例では、5m以下の空間解像度のモデル計算に基づく街区スケールでの暑熱環境シミュレーションや、それに基づく暑熱対策の影響評価が実施可能となってきた。自治体施策の実施検討にそれらを利用する試みも進められている。

本専門分科会では、気候変動影響評価と自治体等を対象とした気候変動適応策に関する議論を行う。

**コンピーナー：**日下博幸（筑波大学）、大西 領（海洋研究開発機構）、原 政之（埼玉県環境科学国際センター）、鶴田治雄（リモート・センシング技術センター）、川久保 俊（法政大学）、田中博春（法政大学）

## 異常気象のメカニズムと要因分析

日時：大会第1日（5月25日） 13:30～17:00

場所：D会場

**趣旨：**1週間から1ヶ月程度の時間スケールで出現する顕著な天候変動—いわゆる異常気象—の理解は、気象学の重要テーマというだけでなく、一般社会にも大きな意味をもつ。気象庁では、社会経済に大きな影響を与える異常気象が発生した際に迅速な要因分析を行い発表することを目的として、2007年6月に異常気象分析検討会が設置された。この検討会は、現在まで官学連携の好例として活動を続けているが、2017年がちょうど10年の節目にあたる。そこで、本分科会では、異常気象分析検討会や現業の気候系監視を気象学会員に紹介するとともに、近年の異常気象に対するメカニズム・予測可能性・要因分析研究はもちろん、ENSO・IOD・温暖化といった長期の気候変動・変化と異常気象のかかわりなど、幅広い講演を募って議論を深めたい。

**コンピーナー：**木本昌秀（東京大学大気海洋研究所）、中村 尚（東京大学先端科学技術研究センター）、前田修平（気象研究所気候研究部）、高橋清利（気象庁地球環境・海洋部）、渡部雅浩（東京大学大気海洋研究所）

## 福島第一原子力発電所からの放射性物質の拡散の実態と影響—事故後6年を経過して—

日時：大会第4日（5月28日） 9:30～11:30

場所：C会場

**趣旨：**福島第一原子力発電所の事故から5年半を経過し、事故以後に開始された環境放射能汚染に関する研究プロジェクトによる成果もいろいろ出てくるようになりました。日本気象学会では事故直後にスペシャルセッション、シンポジウムを開催してきましたが、6年を契機にその後新たにわかった放射性物質の拡散沈着の状況、発生量推定、拡散・沈着・再飛散に関する数値モデルに関する不確実性の削減と活用、今後の政策への提言等の課題に関してこれまでの研究成果を中間的にとりまとめるとともに、今後どのように取り組んでいくかについて議論する分科会を開催したいと思います。

**コンピーナー：**近藤裕昭（日本気象協会・産業技術総合研究所）、石川裕彦（京都大学）、岩崎俊樹（東北大学）、鶴田治雄（リモート・センシング技術センター）、渡邊明（福島大学）

## 新世代静止気象衛星ひまわり8号がもたらす新しい気象学

日時：大会第4日（5月28日） 9:30～11:30

場所：D会場

**趣旨：**「ひまわり8号」は、前運用衛星の「ひまわり7号」に比べ、水平解像度・バンド数・観測頻度といった観測機能が大幅に強化された。同衛星は、2015年7月7日に運用を開始し、観測データを順調にユーザへ提供し続けている。

同衛星については、2011年及び2015年の春季大会でも専門分科会を実施し、活発な議論が交わされた。その後もデータを利用した研究や技術開発が着実に進展しており、台風や局地的大雨などの顕著現象の実況監視や、データ同化を通じた数値予報モデルの予測精度の向上などの成果が報告されている。

同衛星の運用開始から2年近くが経過する本大会で、これまでの利用成果やプロダクト開発、今後の利用計画、データ提供や校正・運用等について情報を共有し、同衛星がもたらす新しい気象学の知見について幅広く議論したい。

**コンピーナー：**岡本幸三（気象研究所）、岩淵弘信（東北大学大学院理学研究科）、増永浩彦（名大宇宙地球環境研究所）、石元裕史（気象研究所）、大野智生（気象庁気象衛星センター）

## 2015年と2016年の台風

日時：大会第4日（5月28日） 13:30～17:00

場所：C会場

**趣旨：**2015年には、台風18号に伴う鬼怒川豪雨により堤防が決壊、流域に大規模な水害が発生したほか、台風15号や21号によって沖縄では記録的な暴風が吹き荒れた。2016年には、台風1号の発生が例年に比べて大幅に遅れたものの、台風7号・9号・10号・11号・12号・16号・18号などが相次いで接近・上陸し、北海道や東北をはじめ各地で大きな被害が発生した。これらの台風の中には、通常とは異なる経路をとったものもあった。このように、過去2年間の台風の挙動には、気象学的にも気候学的にも興味深い現象が多いばかりでなく、社会的にも関心が高く、様々な視点から議論する場を設ける意義は非常に大きい。そこで、本専門分科会では、手法や時空間スケールを問わず、2015年及び2016年の台風に関する研究を募集し、議論を行う。そして、参加者が多面的に台風の姿を捉え、台風研究についての現状認識と課題を共有することを目的とする。

**コンピーナー：**伊藤耕介（琉球大学）、佐藤正樹（東京大学）、筆保弘徳（横浜国立大学）、坪木和久（名古屋大学）、別所康太郎（気象庁）、山口宗彦（気象研究所）、中野満寿男（海洋研究開発機構）

## 偏波レーダーを用いた観測解析技術と利用法の展開

日時：大会第4日（5月28日） 13:30～17:00

場所：D会場

**趣旨：**偏波レーダーは、これまで大学や研究機関で技術開発や利用方法の研究が進められ、2010年から国交省がXRAIN（XバンドMPレーダー雨量情報）に採用、気象庁でも2016年から現業運用が始められました。

精力的に進められている偏波レーダーの観測手法の開発、精度の高い降水強度の推定、降水種別の判定、データ同化などの偏波データの利用法の開発は、豪雨災害の軽減だけでなく、雲微物理過程や降水現象の機構解明などの研究分野をさらに発展させていくものと期待され

ています。

このセッションは、偏波レーダーが、どのように利用され活用されているのか、その情報交換の場にしたいと思えます。偏波レーダーで観測されている皆さんや、偏波レーダーの観測データを利用している皆さん、興味をお持ちの方々の発表と参加を期待いたします。

コンピーナー：瀬古 弘（気象研究所）、上田 博（名古屋

屋大学）、真木雅之（鹿児島大学地域防災教育研究センター）、中北英一（京都大学防災研究所）、佐藤晋介（情報通信機構）、大東忠保（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、出世ゆかり（防災科学研究所）、足立アホロ（気象研究所）、川畑拓矢（気象研究所）

---

## 公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は事前申込みが必要です。詳しくは公開気象講演会参加登録のページ (<http://www.metsoc.jp/?p=5906>) をご覧下さい。参加は無料です。

日時：2017年5月28日(日) (大会第4日) 13:30~17:00  
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター セミナーホール417 (大会A会場)

テーマ：「大雨災害」に備える」

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

後援：一般社団法人日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会2017年度春季大会の開催にあわせて、一般市民の方々に気象に関する最新の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として、公開気象講演会を開催します。今回は、「大雨災害」をテーマとして取り上げます。毎年、日本各地で大雨が発生し、土砂崩れ、河川のはん濫、家屋の床上・床下浸水などの甚大な災害がもたらされています。近年では、平成26年8月の広島県での大雨や平成27年9月関東・東北豪雨などがあり、多くの尊い命が失われました。

今回の講演会では、「大雨」の気象学的な理解を深めるとともに、「大雨」に対する防災・減災に焦点を当てます。防災・減災については、防災気象情報の出し手、伝え手、受け手のそれぞれの立場から、さまざまな経

験やご意見などを紹介して頂きます。奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

テーマおよび講演者：

1. 「積乱雲の発生・組織化と大雨の発生メカニズム」  
加藤輝之 (気象庁)
2. 「気象庁が発表する大雨に関する防災気象情報(仮題)」  
高橋賢一 (気象庁)
3. 「防災気象情報の伝え方(仮題)」  
木原 実 (気象予報士/防災士)
4. 「市町村の防災気象情報を活用した防災・減災対応」  
出水田正志 (龍ヶ崎市役所)
5. 「パネルディスカッション」  
司会：津口裕茂 (気象研究所)

問い合わせ先：津口裕茂 (教育と普及委員会)

TEL: 029-853-8643 (気象研究所予報研究部)

E-mail: [msj-ed\\_2017@metsoc.jp](mailto:msj-ed_2017@metsoc.jp)

---

## ジュニアセッションのお知らせ

※下記の趣旨のため、多くの学会会員の皆様にご参加いただき質疑やコメントをくださいますよう宜しくお願いいたします。

※ジュニアセッション発表者・見学者の参加は無料です。

日時：2017年5月28日(日) (大会第4日) 11:00~12:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 401・402・403・409 会議室 (大会ポスター会場)

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会・講演企画委員会

趣旨：時々刻々変化し、人々の生活に大きな影響を及ぼす気象。若い人たちにとっても、興味は尽きないことでしょう。日本気象学会は、主として高校生世代を対象に、「ジュニアセッション」を開催しています。この企画は、生徒たちが自ら行った気象や大気に関する調査・研究の成果を、専門家の前で発表体験すること、また、意見交換することによって調査・研究を深めてもらうことを主な目的としています。気象や大気に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊

かな社会の招来に繋がることを期待しています。

発表資格：高等学校、高等専門学校生(1~3学年)の生徒(新卒者含む)個人またはグループ。中学生の発表も可。

発表内容・形態：ポスターセッション形式。内容は気象・気候や大気についての生徒による調査・研究成果。

見学資格：発表者がいない学校の生徒、教諭、引率者。

申し込み方法：ジュニアセッション2017のページ (<http://www.metsoc.jp/?p=7096>) をご覧下さい。申込方法は(<http://www.metsoc.jp/?p=7101>) をご覧下さい。

参加特典：

1. 発表者の全員に対し、「発表認定証」を発行します。
2. 日本気象学会ホームページに発表者や発表要旨

などを掲載し、顕彰します。

3. 発表者は、専門家による質疑やコメントを通じて、研究の要領やヒントを得たり、また参加者間の交流を深めたりすることができます。
4. 発表者・見学者・引率者は春季大会における各種セッション、シンポジウム、講演等を無料聴講で

きます。

問い合わせ先：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会  
東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁内  
TEL: 03-3216-4403 FAX: 03-3216-4401  
E-mail: msj-ed\_2017@metsoc.jp

## 研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 第 47 回メソ気象研究会・第 10 回気象庁数値モデル研究会

日時：2017 年 5 月 24 日（水）（大会前日）13:30～17:30

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町 1-3-4）

テーマ：「数値モデルによる積乱雲とその効果の表現」

コンビーナー：加藤輝之（気象研），永戸久喜（気象庁数値予報）

内容：メソ気象の事例解析では、不十分な観測データを補完するためには数値モデルによるシミュレーションが欠かせません。特に積雲対流にともなう降水事例の解析においては、数値モデルにおける積乱雲そのものやその効果の表現が非常に重要です。積乱雲そのものの表現については、雲・降水粒子の盛衰の過程を扱う雲微物理スキームが数値モデルに導入され、水平解像度が 100～500m になれば可能とされていますが、積雲対流の特性を支配する様々なスケールの現象を全て表現可能かどうかや、雲微物理スキームや解像度の依存性など、幾つかの検討すべき課題があります。一方、個々の積乱雲を表現できない、概ね 5km 以上の水平解像度の数値モデルでは、積雲対流の効果をパラメタライズしたスキーム（積雲対流スキーム）が用いられています。気候モデルや季節予報モデルはもとより、気象庁で短期・中期予報用に現業運用されている全球モデルやメソモデルにおいても積雲対流スキームが用いられており、予測精度への影響が大きいことからその改良や高度化は重要な開発課題の一つとなっています。積雲対流の特性を支配する様々な現象の効果を適切に表現するためには、積雲対流に関する様々な知見を基にそれらを適切にモデル化するための取り組みが必要です。今回のメソ気象研究会では、気象庁数値モデル研究会との共催で、高解像度数値モデルにおける積乱雲や降水の振る舞いに加えて、積雲対流のパラメタライゼーションに対する取り組みについて講演を行っていただき、積乱雲やその効果の表現に関する双方の現状と課題を共有し、それぞれの知見をどのようにして互いの課題解決に活かしていくべきかを議論したいと考えております。観測による知見をお持ちの方も含めて、多くの方々のご参加と活発な議論をお願いいたします。

プログラム：

13:30-13:40 開会挨拶・趣旨説明

13:40-14:10 「対流活動における大気成層の構造変化・上昇流に対する数値モデルの水平解像度の影響」  
加藤輝之（気象研）

14:10-14:40 「積雲対流の発達と環境の安定度・水蒸気量との関係」

竹見哲也（京大防災研）

14:40-15:10 「超高解像度全球雲解像実験からわかる対流の統計的性質」

富田浩文（理研計算科学）

休憩

15:30-16:10 「積雲対流パラメタライゼーションの概要と気象庁現業メソモデルの積雲対流スキーム」

松林健吾（気象庁数値予報）

16:10-16:35 「気象庁現業全球モデルの積雲対流スキーム」

氏家将志（気象庁数値予報）

16:35-17:00 「気象研究所地球システムモデルの積雲対流スキーム」

吉村裕正（気象研）

17:00-17:30 総合討論

世話人：坪木和久（名大宇地研），加藤輝之（気象研），小倉義光（東大大気海洋研）

連絡先：加藤輝之（気象研）

E-mail: tkato@mri-jma.go.jp

注意事項：講堂でのご飲食はご遠慮ください。トイレは 1F をご利用ください（名札を提示されるとゲートを通してもらえます）。

### オゾン研究連絡会

日時：2017 年 5 月 25 日（木）（大会第 1 日）

18:00～20:00

場所：309 会議室（センター棟 3F）（大会 B 会場）

テーマ：「航空機観測キャンペーンについて」

内容：近年、東アジアにおける大気質を対象とした航空機観測キャンペーンが活発に行われている。Korea-United States Air Quality Study (KORUS-AQ) 2016 キャンペーンは NASA と韓国が共同で 2016 年 4-6 月に実施した航空機観測キャンペーンである。主に韓国周辺の上空での観測であったが、DC-8 機は佐賀や福江の上空にも飛来した。現在、地上・衛星観測やモデルシミュレーションと合わせたデータ解析が進行中である。2020 年頃には再度航空機観測計画が進行中であるが、内容はまだ未確定で、今後の参加も可能な段階にある。一方、2018 年 4 月ごろにはドイツの観測専用機 HALO を用いた観測キャンペーン Effect of Megacities on the Transport and Transformation of Pollutants on the Regional to Global



Scales(EMeRGe)-Asia が予定されており、台湾をベースに、日本や東南アジアの上空を観測ターゲットとしている。その他に計画中のキャンペーンも含め、海外からは日本からの参加者を求めている。今回の研究会では、これらの航空機観測や今後の計画について情報提供を行うと共に、日本の貢献がみえるべく、オールジャパン体制での参加を意識した対応について議論することを目的として企画した。また併せて、昨年9月にエディンバラにて開催された国際オゾンシンポジウムの参加者から、最新のオゾン研究関連の情報を提供いただく予定である。

**講演者：**

「KORUS-AQ について」

宮崎和幸 (海洋研究開発機構) 40分

「EMeRGe について」

金谷有剛 (海洋研究開発機構) 40分

「まとめと討論」

司会 林田佐智子 (奈良女子大学) 20分

「国際オゾンシンポジウム報告」

中島英彰 (国立環境研究所) 20分

**世話人：**林田佐智子 (奈良女子大学)， 笠井康子 (情報通信研究機構)， 金谷有剛 (海洋研究開発機構)， 高島久洋 (福岡大学)， 宮崎和幸 (海洋研究開発機構)

**連絡先：**林田佐智子 (奈良女子大学)

E-mail: sachiko@ics.nara-wu.ac.jp

**極域・寒冷域研究連絡会**

**日時：**2017年5月25日(木) (大会第1日)

セッション終了後～2時間程度

**場所：**310会議室(センター棟3F) (大会C会場)

**テーマ：**マルチスケールで考える、都市における降雪・積雪

**趣旨：**人口の集中する都市での大雪は、交通障害等の社会的な影響が大きく、その範囲も想定外なものになります。2016年11月には東京都心で11月としては観測史上初めて積雪が観測され、12月には札幌で50年ぶりに90cmを超える積雪となり、鉄道や空港が大混乱となりました。こうした都市部を襲う降雪現象に対しては南岸低気圧やポーラー・ローのスケールから、平野・局地スケールに至るさまざまな降雪過程を考慮する必要があります。今回はこのような極端な降雪・積雪現象に対して、実際に大雪に見舞われた現業官署での対応、予測向上へ向けた新しい試み、市民参加による広域の情報収集の手法の持つ可能性などについて3名の方にご講演をいただきます。関連する内容での飛び入りの発表も歓迎します。

- 1.「2016年12月の札幌市・新千歳空港での大雪について」  
浅井博明 (気象庁新千歳航空測候所)
- 2.「2016年12月の北半球の大気循環とその予測可能性」  
佐藤和敏 (国立極地研究所)
- 3.「市民科学による超高密度広域雪結晶観測」  
荒木健太郎 (気象研究所)

**問い合わせ先：**大島和裕 (海洋研究開発機構)

TEL: 046-867-9261

E-mail: kazuhirou@jamstec.go.jp

**第1回気象学史研究会**

**日時：**2017年5月27日(土) (大会第3日)

18:00～20:00

**場所：**309会議室(センター棟3F) (大会B会場)

**テーマ：**「気象学史研究はどうあるべきか」

**内容：**2016年12月に発足した気象学史研究連絡会による第1回目となる研究会です。そこで気象力学研究の世界の第一人者として活躍される傍ら、科学史など歴史的観点からも発言を続けてこられた京都大学名誉教授・元学会理事長の廣田勇先生と、科学史の分野で特に気象学史にご関心を持ち続け、気象学会員との共同研究でも多くの成果をあげられている神戸大学教授の塚原東吾先生をお迎えして、それぞれの視点から気象学史研究のあり方へのご提言をいただきます。ご参加のみなさま各々の洞察を深める契機としていただければ幸いです。なお、本研究会は気象学史研究に関心を持つより多くの方の間の情報・意見交換をうながすため、学会員以外の方にも広く参加を呼びかけて開催いたします。

**プログラム：**

ご挨拶 三上岳彦 (帝京大学)

気象学史研究連絡会の発足にあたって

基調講演 廣田勇 (京都大学名誉教授)

歴史を学ぶ、歴史に学ぶ ―科学史の視点に関する一考察

招待講演 塚原東吾 (神戸大学)

科学史のなかでの気象学史：「歴史の科学化」と社会史視点という両輪

総合討論

**連絡先：**山本 哲 (気象研究所)

TEL: 029-853-8615 FAX: 029-855-7240

メールでのお問い合わせは気象学史研究連絡会ウェブサイトの問い合わせフォームをご利用ください。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>

---

## 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、次の施設を紹介いたします。

1. セルリアンタワーポピンズキッズルーム

URL: <https://www.poppins.co.jp/nursery/cerulean.html>

TEL: 03-5728-1377

アクセス：渋谷駅から徒歩5分

利用可能時間：10:00～20:00 (営業時間外 8:00～10:00/20:00～23:00 の予約は要相談)

完全予約制：定員10名。利用希望日の1ヶ月前～2日前の10時～19時の間に施設へ直接予約。

利用料金等：ビジター基本料金、延長料金、早朝夜間料金、持ち物等については施設ホームページを参照。

## 2. JBS 子供の部屋

URL: <http://www.jbs-mom.co.jp/sitting.html#14>

TEL: 03-3423-1251

アクセス：原宿駅から徒歩 10 分

利用可能時間：平日 9:00～17:00；土曜日 9:00～12:00

完全予約制：定員 6 名。施設へ直接予約。定員に満たない場合は当日申し込みも可能（朝一番の申し込みでも午後からの利用になる場合あり）。

利用料金等：ビジター料金，延長料金，持ち物等については施設ホームページ参照。

### ※参考情報（青少年教育情報センター内キッズコーナー）

国立オリンピック記念青少年総合センターのセンター棟 2 階にはキッズコーナーが併設されています。付添人が必要ですが絵本などを自由に閲覧でき，利用は無料です。

URL: <http://www.niye.go.jp/services/research/#jyohos>

アクセス：大会会場と同じセンター棟内

利用可能時間：平日 12:00～16:00

土・日曜日 11:00～17:00

利用料金等：無料。飲食不可，簡易授乳室あり，オムツ替え可能。土曜日の午後は「絵本お話し会」開催。

大会実行委員会では，利用料金の一部を補助する予定です。上記施設以外の保育施設を利用される方も，この対象になります。詳細は日本気象学会の「学会大会時の保育支援にかかるとのガイドライン」（[http://jinzai.metsoc.jp/files/childcare\\_support\\_guideline.pdf](http://jinzai.metsoc.jp/files/childcare_support_guideline.pdf)）をご覧になり，保育支援をご希望される方は，下記担当者までご連絡ください。それ以外のお問い合わせについてもできる限りご対応致します。

連絡先：猪上 淳（国立極地研究所）

E-mail: [inoue.jun@nipr.ac.jp](mailto:inoue.jun@nipr.ac.jp)

TEL: 042-512-0681

---

## リクルートブースの設置について

ポスター発表が行われる場所に隣接して，会場内にリクルートブースを設ける予定です。これは，民間企業から適職に出会うための機会を提供して頂き，気象学会に所属する大学院生や有期雇用研究者との間での情報交換を通じて，彼らのキャリア形成をサポートすることが目的です。参加予約手続きは不要です。ブースでは，ポスター発表時間および昼休みにのみ，企業担当者が対応します。

リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです

（2017 年 3 月 15 日現在）。\*の企業は 5 月 25 日（木）と 26 日（金），それ以外の企業は 27 日（土）と 28 日（日）の開設を予定しています。

株式会社ウェザーニューズ

オフィス気象キャスター株式会社

気象工学研究所\*

日本気象株式会社\*

一般財団法人日本気象協会\*

（五十音順）

---

## 秋季大会の予告

2017 年度秋季大会は，2017 年 10 月 30 日（月）～11 月 2 日（木）に北海道大学で開催される予定です。